

菊川西中だより

校長室の窓

「私が教師になったわけ」 H君との素敵な 出会いをおして!!



平成27年度も2月に入り、3年生は1ヶ月ちよつとで卒業です。これまで同じ菊川に生まれ、同じ中学校に通い、同じ教室で過ごし、同じ給食を食べ、同じグラウンドで汗を流した179名の仲間が、いよいよ一人ひとり別々の道を歩み始めるのです。そこには様々な出会いが待っています。今日は、私がなぜ教師の道を選んだかと言う事をおして**人生を変える出会い**についてお話したいと思います。

私は中学生時代にアインシュタインの相対性理論にあこがれ、相対性理論の一般向け解説書を読みあさりました。将来は物理学の研究者になりたいと思い、「高校理数科」「大学理学部物理学科」の順に進路を選択しました。同時に水泳部にも入っており、大学時代はスイミングクラブでアルバイトをしていました。新設の弱小クラブでもあり、経営陣は大学生の私に選手コースを任せてくれました。結構のスパルタ指導で、子どもたちはそれなりに強くなりました。ある年、2人の小学生が5月の春季関東大会へ出場することができました。3年生のHくんは50m バタフライと自由形に出場です。最初の50m バタフライ決勝では電光掲示板に「3位Hくん」が表示されています。Hくんは大喜びで私の方へやってきます。しかし場内アナウンスは無常です。「なおOコースを泳ぎましたHくん△スイミングクラブは泳法違反のため失格です」……泳法審判に聞いてみると、ドルフィンキックの足が乱れたということです。とたんにHくんはボロボロ泣き始めます。小学校3年生にとって厳しい現実です。私はHくんを屋外に連れ出し、もう水が入ってあった屋外プールをさして「この冷たい水で顔を洗え」と指示します。そして「泣くんじゃない!まだクロールが残っている。クロールで勝てばいいじゃないか!」しかし私に勝算はありませんでした。なぜならHくんは予選5位通過です。このままいくと、決勝でも5位、つまり「メダルなし」だからです。そしていよいよ「男子8才以下50m自由形決勝」です。さすがに決勝はすごいデッドヒートになります。団子状態でゴール!Hくんはすぐ電光掲示板を見上げます。自分が「3位」に表示されているのを確認すると、周りをキョロキョロして私を探します。そして私と目が合うとニコッと笑いました。**泣いていたHくんが見せた最高の笑顔**です。20年後シドニーオリンピックで女子マラソン金メダルの高橋尚子選手はゴールした後、スタンドをキョロキョロ見回して小出コーチを探しました。大会の規模も、競技者のレベルも全然違います。私とHくんには比べられるわけありません。それでも小出コーチの元に駆け寄る高橋選手の姿に、20年前のHくんの笑顔がダブリました。

研究者になることを夢見て大学院受験を考えていた私ですが、翌年教員採用試験受験へと進路を変更しました。今、私が菊川西中の校長として勤務しているのは**Hくんとの出会いがきっかけ**でした。もしHくんと出会わなかったら私はきっと違った人生を歩んでいたと思います。3年生の子どもたちが進学した上級学校で……、将来の職場で……、あるいはその後……、**必ずあるはずの「運命の人との素敵な出会い」**を祈らずにはられません。Hくんはその後、私が大学を卒業して静岡県へ帰った後、進学した中学校でも水泳を続け、全国大会へ出場したと聞いています。彼にとっても、私との出会いが人生のひとつの分かれ目になったのかもしれないね。(文責 森田)